

II. 歯と骨と生体力学で解く重力の謎

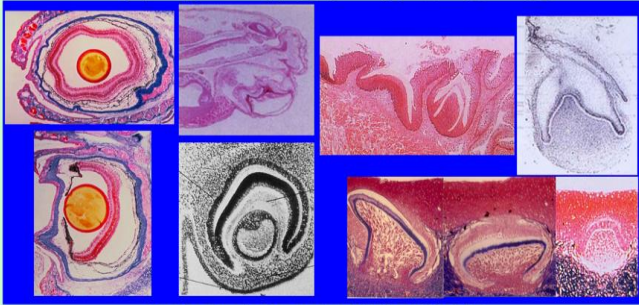
歯とは何か？骨とは何か？重力とは何か？生体力学とは何か？を重力との関連で深く考察してみましょう。これは究極では物質と物質で出来ている生命体と、質量のないエネルギーのうち重力エネルギーとの関連を考察するものです。歯の働きは何かと言えば、食物を噛み砕きすりつぶす装置です。物理現象でこれを見れば、重い歯が、重力方向に互いに反対方向からぶつかり合う衝突現象です。ここで物質と重力についてアインシュタインの等価原理すなわち「重力と加速度は区別出来ない」を思い出しましょう。加速度をもってぶつかり合う歯の働きは、とりもなおさず重力同士の衝突です。骨は重い動物の体を支えて、移動する時の駆動力を骨により得ます。そして移動時に働く生体力学は、一般の機械力学とは、本質的に異なっています。何となれば、高等生命体は、超多細胞で出来ているため、これら全細胞を養うために重力に逆らって心臓ポンプを働かせて体の隅々まで血液リンパ液を巡らさなければ健康体を保てないからです。

従来のこの業界の盲点は、この重力作用を失念してしまったところにあります。生体力学には、必然的に重力引力作用がその学問の中に内蔵されているのです。そして60兆個からなるヒトの生命体は、一時も休むことなく細胞呼吸を続け、1日に1兆個の細胞がリモデリングを続け、休むことなく代謝・同化・異化作用を続け、しばしば歩いたり走ったりの移動をします。鳥や魚のように長期に長時間にわたり頭進を続ければ、体の中でエネルギーの渦が巡りつつ重力作用を受けながらリモデリングしますから、時間のかかる、ミトコンドリアの産物である余った栄養の終極の産物の生殖細胞は、高等な哺乳動物の雄の場合には睪丸として腹腔内部から体外の重力方向に飛び出すのです。一事が万事こうして体が運動方向と重力方向のベクトルとの合成で慣性の法則に則って変化するのです。これらのことを表3 (P31) にまとめました。

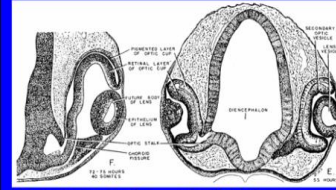
歯が重力と深くかかわる器官である事に筆者が気づいたのは、今から30年前頃、ヒトの歯胚の組織像と眼胚の組織像を見て、直感で同じ構造をしているのを知った時です。歯は重力を担う咀嚼力の担体で、眼は電磁波を受ける光の感覚器官です。これが同じ構造という事は高等生命体にとって光と重力という異質なエネルギーを、ともに等価として対応しているという事を知った時です。もとより歯は重力力学作用の衝突を担うべく、眼とは逆の構造になるのは当然のことと言えます。

そこで、はたと気づいて光と重力をあらゆる方面から比較して見ました。「重力と加速度とは区別出来ない」等価原理からわかることは、重力にはその源としての物質 (matter) オリジンがなければならないということ。これが万有引力の

II. 歯と骨と生体力学で解く重力の謎



眼胚と歯胚の組織像が近似



眼と歯の発生

眼: 電磁波

歯: 衝突

宇宙の構成則

1. 空間 space

2. 時間 time

3. 物質 matter

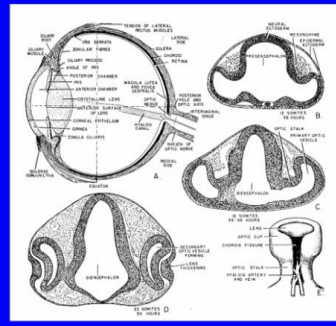
→ トリエッセンス

シックスエッセンス

i) 光

ii) 重力

iii) 温熱



大脳辺縁系思考の漢字
重い 動く 重力

物質と重力の関係
物質-固相・液相・気相の三相
それぞれに重力を持つ

歯の働き

物理現象-衝突:

脊椎動物のみ重力を利用 鉛直方向
節足動物の口は水平

バイオメカニクス
生体力学とメカニクスの
本質的ちがいは何か?

これまでの生命哲学-(生命とは何か?)
に一切バイオメカニクスが入っていないかった

重力引力作用の完璧失念

宇宙の構成則

三大構成則

時間・空間・星(物質)

五大根源構成則-クインテッセンス

時間・空間・光・重力・熱

熱力学

Einstein

物質もまたエネルギーの様態の
一つである

色即是空 空即是色

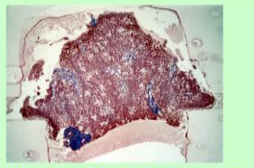
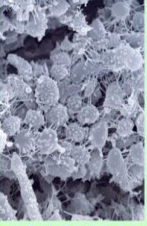
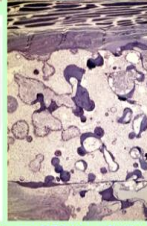
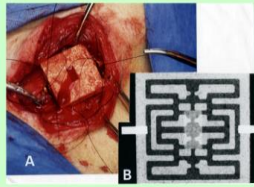
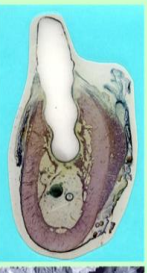
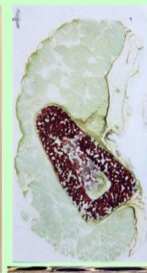
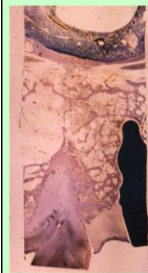
哺乳動物学では
色(物質)も空(エネルギー)も
触媒として等価

脊椎動物の謎

進化の機序

免疫システム

骨髓造血システム



ハイブリッド型人工器官 患者の細胞の遺伝子をエネルギーで発現させる

表 3

生体力学

超多細胞体(ヒト)

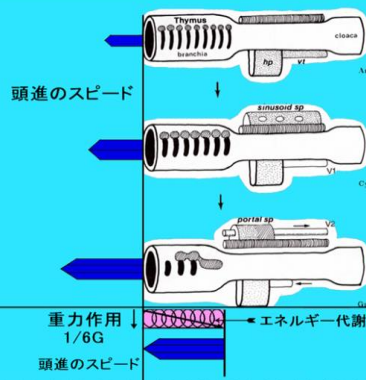
- エネルギーの渦の回転体

1日1兆個の細胞リモデリング

生体力学運動

どんな時にも必ず重力が働く

頭進のスピード軸



頭進のスピード

simusoid sp

portal sp

重重力作用

1/6G

頭進のスピード

エネルギー代謝とリモデリングの渦

浮力に相殺されて1/6 g

海水中

鳥類

両生類

爬虫類

頭進のスピード

頭進のスピード軸

重力作用

1G

エネルギー代謝とリモデリングの渦

重力軸

頭進のスピード

4 Reptilia

separate sp

Thymus

B. Fabri.

時間軸

重力作用

1G

エネルギー代謝とリモデリングの渦

重力軸

頭進のスピード

上陸劇

陸上

Thymus

Payer

時間軸

重力作用

1G

エネルギー代謝とリモデリングの渦

重力軸

頭進のスピード

渦が動く時鉛直方向に
重力ベクトルが働く

法則で、すべての物質はその本性として重力引力作用を持つということです。では光はどうでしょうか。ファインマンはニュートンと同様に光を深く研究しましたが、ニュートンとの違いは、光にも物質起源が存在する事を彼は失念していたらしいことです。多くの量子物理学者は光に光源という物質オリジンが必須のことを失念しています。光はこの宇宙に、アприオリに存在するものと誤解しています。ニュートンはもとより、光も重力もともに質量（光源の）に比例し、その強さはともに距離の二乗に反比例することをその法則として示しています。つまり光も重力もともに質量のある物質にそなわった本性の異なった側面だということです。ニュートンは、生涯にわたり元素の研究を行い、極秘の研究室を設けて、秘かに錬金術の研究を続けたことが知られています。彼は、まさに物質の源の元素についての研究の途上で光と重力を発見したのでした。

もう一つ、物質にそなわった本性の一部がフランス革命の頃にラムフォードが検証した熱です。ラボアジエの時代には、熱は質量のあるカロリック粒子によって運ばれると誰一人として疑いを持たなかったのです。大砲の砲身を削ると、際限なく摩擦熱が発生することを目の当たりにしたラムフォードは、熱が物質の摩擦で生ずるエネルギーである事を発見して発表しました。しかし100年間も無視されたあげく、今だにラムフォードの仕事は認められていません。この事実からも解ることは、熱力学で大騒ぎをしている熱もまた、その源は物質なのです。フーリエが述べていますが、熱も光も重力も、宇宙のすべてを透過し、その強さは熱源・光源・物質の質量に比例し距離の二乗に反比例します。

かくして質量のある「物質もまたエネルギーの形態の一つである」というアインシュタインのことばが、漸くにして「光と重力と熱の三つのエネルギー側面を本性として切っても切れない関係で持っているのが質量のある物質である」というところに行きつきました。こうして宇宙は、時間と空間と質量のある（元素の集合体）物質の三要素から成り、この物質がさらに光と熱と重力の三種のエネルギーに分かれ、宇宙の構成則が五つのエネルギーすなわち時間、空間、光、熱、重力エネルギーのクインテッセンスであることが明らかとなりました。

そして質量のある物質もないエネルギーも、ともに等価であるという事は、高等な脊椎動物にとっては、ともにこれらの刺激が触媒となってミトコンドリアや染色体の中の細胞核の遺伝子の引き金が引かれて化生現象が起こることで生命の営みが続けられ、発生も進化も起こり、成長も生殖も老化も病気も死も起こっているということが究明されました。進化のしくみさえ解れば、病気の発症のしくみも訳なく解けるはずです。